

網張ビジターセンター ニュースレター



Vol.55
2014.7



成長のひとコマ



amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori * 網張の森の生き物たち * amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

“シロオビアワフキ”の観察日記

不安定な天候が続いていた7月初旬、近未来のスポーツカーのようなユニークな姿が印象的なシロオビアワフキに出会いました。警戒心が強いいためか、通常気配を感じると見事な跳躍力で目の前から姿を消してしまいます。でもこの時は、どんなに近づいて写真を撮っても動こうとはしませんでした。逃げてしまうのを覚悟で葉っぱを持ち上げ、更にカメラを近づけた際、葉っぱの裏に背中がパッキリと割れた蛹の跡を見つけました。おそらく羽化したばかりで体が落ち着くまでじっとしているところだったのかもしれない。この成虫を見かける少し前に、同じ辺りで親とはあまり似ていない幼虫にも会っていました。アワフキムシという名の通り植物の茎などの泡の中で生活しているため、幼虫を頻繁に目にすることはありませんでしたが、幼虫→蛹の跡→成虫とわずか1cm程の昆虫の成長過程を垣間見ることができました。

What is
Shiroobiawafuki? ?

「白い帯のあるアワフキムシ」

アワフキムシ科
全長：約11～12mm
分布：日本全土

前翅に白っぽい帯があるのが特徴。カメムシの仲間ですトローのような口を持つ。幼虫はおしりから出す粘着性の液を泡立てた中で生活し、乾燥、捕食者や寄生などから身を守っている。

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori



テレビなどで紹介されたこともあり、網張の森の散策が小さなブームを呼んでいます。今回から1〜8番までのポイントを巡り、その周辺の植生や森の中の解説を連載して行きます。

網張の森 セルフガイド



セルフガイドの1番では、かつて網張の森では薪採りや炭焼きのために樹木が伐採され、ふもとの人々と密接に係わっていたことが紹介されています。若手山麓ではどこでも行われて来ましたが、高度成長期に入るとそれらは止められ、放置された森では切り株からの萌芽や種からの実生が大きくなって、自然林が発達して来ました。鳥や動物たちも戻って来て、今では豊かな生態系が広がっています。

この辺りには小さな沢がいくつか流れており、湿った所を好むトチノキやサワグルミなどを始め、ブナ・ミズナラ・ハウチワカエド・ホオノキなどの樹木の他ミズバショウも。キクザキイチリンソウなどのスプリングエフェメラルの仲間も沢山生えていて、春先の花から秋の紅葉まで、季節の彩りを絶やすことはありません。

この散策路の両側は、実はヒメボタルの生息地になっていて、幼虫が落ち葉の下にいます。道を外れて藪に入ることはお止め下さい。



入口にある5本の大きな木

入口手前の4本はサワグルミ。残念ながら実は小さくペタンコで食べられません。

もう一本はトチノキ。今年も少し実が生りました。ピッカピカの実が落ちるころ、網張にも秋が訪れます。

付近の樹名板は他に、ノイバラ・シウリザクラなどが立ててあります。



垂れ下がるサワグルミの実。材の用途は建築・器具の他マッチの軸木などにも使用。



上を向くトチの実。蜜源植物でもありトチ蜜は有名。用途は器具・楽器など

季節の手づくり展示

常設展示に加えて随所に工夫

展示コーナー紹介 その①

ビジターセンターは開館して10年。館内には開館当時の常設展示が沢山あり、みなさんからの意見を元に工夫を加えて来しています。

また、その他に季節に応じた手づくりの展示物を作り、内容の充実に努めています。中には、行事に参加されたみなさんやパークボランティアから提供された写真なども飾られ、臨場感のある展示になっています。夏休み期間は子供コーナーも設置します。



正面玄関を入ってすぐ、ウェルカムボードが目に入ります。ここには網張の森で、今出会うことができる花や野鳥、昆虫などを紹介しています。散策の前には是非どうぞ。天気予報もありますよ。



シリーズ「私はだれでしょう」 野鳥編



モリアオガエルのオタマジャクシも飼育しています

佐和子先生の森と友達

松木 佐和子



「種山ヶ原」と聞いて最初に思いうかべるのは、広々とした草原、そして宮沢賢治の詩ではないだろうか。住田町、奥州市、遠野市にまたがる物見山山頂（870.6m）からは北に岩手山、早池峰山、西に栗駒山、焼石連峰、東に五葉山、南に室根山が眺望できるという。山頂近くには背の低いレンゲツツジ、ノイバラ、イワテヤマナシ、アカマツ等の樹木が点在し、その間をノシバが占めているため、とても見晴らしが良いのだ。ただし日本海側と太平洋側の気候がぶつかるこの場所で、360度晴れていることは稀のようだ。山々の眺望よりも、次々と不思議に形を変える雲の流れを観察するのに最適な場所と言った方がいいかもかもしれない。

この種山ヶ原の麓に居を構えてから五代目という遠藤純睦さん(S5年生まれ)に、かつての高原の様子をお聞きする貴重な機会を得た。種山ヶ原では明治時代には国有牧野として馬の放牧が行われており、20戸ほどの集落がその管理に携わっていた。春先には、餌となる良質の若草を得るために毎年欠かさず山焼きを行っていた。宮沢賢治がこの地を訪れた大正時代には「海だべがと思たれば」と詩に詠むほどの広い草地在り、遠藤さんも良く目にしたというカッコ(アツモリソウ)などの花々が草原をにぎわしていたのだろう。

その後終戦を迎え、まもなくして牧野が県に移譲され、馬の放牧は牛へと変わっていった。昭和35年に奥州市側の草地は近代的な人工草地へと改変され、牛の種類も農耕を目的とした朝鮮ペコ(赤牛)から乳牛(ホルスタイン)へと変わった。一方、住田町側の草地の多くは昭和40年代にカラマツが植林された。しかし山頂付近の造林に不適な場所は手をつけられずに残り、現在に至っている。今でも山頂付近では牛馬の餌として不適なレンゲツツジやドクウツギ、ノイバラなどが多く見られるのは、50年近く経った今もかつての草地の面影を残しているからだ。

ここ最近、80年以上も種山ヶ原を見て来た遠藤さんが初めて目にするできごとがある。それはニホンジカの来訪である。牛や馬に替わって、こんどは野生のニホンジカが種山ヶ原の風景を変えて行くのだろうか？しかし家畜とは違い簡単にはコントロールできない野生動物。豊かな自然と独特な景観が失われないように、注意深く見守って行く必要があるだろう。

(岩手大学 農学部 共生環境課程 講師)



おかげさまで今年度、満10年目を迎えます

網張ビジターセンター開設ものがたり

第二話 ・ ・ ビジターセンターがなぜ網張に ・ ・ 千村 勝哉 (元網張ビジターセンター主任解説員)

前回では、ビジターセンターが、なぜ国立公園に取り入れられたのかについてふれましたが、それではビジターセンターがなぜ網張に設けられることになったのでしょうか。ビジターセンターは環境省が定める「国立公園計画」によって指定された「集団施設地区」に主に計画され整備されます。「集団施設地区」は国立公園の利用者がよく集まる場所で、宿泊、休憩、展望、探勝、野営、野外レクリエーション、情報提供や自然とのふれあい活動等に関する利用施設が集約的に整備される地区で、利用拠点になるとともに、そこ自体で自然探勝や散策等の野外レクリエーション利用も完結できる地区でもあります。これはあちこちにむやみに利用施設を設けることを避け、秩序だった整備をはかることによって国立公園の自然風景の保護と効率的な利用の推進を両立させるために工夫され編みだされた考え方に基づくものです。網張は、古くからの名湯地で、休暇村宿舎やスキー場、野営場等が整備され、路線バスによる交通上の接点をなし、岩手山への登山拠点でもあって、機能上も歴史的背景からしても「集団施設地区」としての要件を十分備えた地区であったわけです。十和田/幡平国立公園/幡平地域では、網張の他には藤七温泉、松川温泉、蒸ノ湯、後生掛温泉、玉川温泉、田沢湖高原などが「集団施設地区」として指定されています。当然ながらそれぞれ景観要素や性格は独特のものを有しております。ビジターセンターの立地条件として求められる要件には、位置が分かりやすく、到達性が良く、利用の中心地であること、自然環境が良好なこと等々がありますが、さらに重要な要件の一つに、隣接地に自然探勝路が設定できること、があります。これは国立公園の本質を理解することにつながる利用施設として、相乗効果のもとに一体的な機能を発揮するために必須とされているものです。網張ビジターセンターの場合においても、ここを起点とし森林と草原を巡る約2kmという手頃な回遊路散策型の自然探勝路に恵まれていたのですが、このことは決定的に幸運なことでした。「網張の森」と称されるこの探勝路には、実にさまざまな景観要素が見られるからです。「網張の森」は、伐採後60数年を経た二次林ながら、ミズナラ林とブナ林の境界付近に位置して両者の要素が錯綜する瑞々しい夏緑広葉樹林、これを基盤とした森林性野鳥類、ツキノワグマ、ニホンカモシカ、モモンガやコウモリ類等の哺乳類、ヒメボタルすらいる昆虫類に爬虫類等、また、スキー場草原では、岩手山系や烏帽子岳(乳頭山)方面、宮沢賢治が研究や作品作りに奔走した足跡が多く残る雫石盆地等の展望が開けるほか、さまざまな野生草本の百花繚乱景、見方を変えれば、開花と昆虫、野鳥間で繰りひろげられる、「喰う、喰われる」、「騙す、騙される」の戦略を尽くしての「戦場」の様相、ビジターセンターのすぐ上には明治時代の網張温泉宿跡、はたまた、漆黒の夜の得体の知れない怖さが同居する一筋縄ではいかない世界、さらには、冬ともなればスキー、スノーシューでの雪上探勝に現出する幻想的な雪景等々、歳時の多彩な景観は限りがないほどです。このように、生命観にあふれ、多様な風景観や自然観、あるいは生命観を与えてくれる網張地区にビジターセンターが設けられたことは必然的であったというか、むしろ生得的なことだったというべきかもしれません。

国立公園レンジャーの現場から

環境省盛岡自然保護官事務所

“公園の命を採らないで”

環境省盛岡自然保護官事務所では、6/24 八幡平・6/27 秋田駒ヶ岳・7/4 三ツ石山で、岩手県警他関係機関の協力のもと高山植物の盗採防止パトロールを実施いたしました。とても残念なことに今年も盗採跡が何件か見つかりました。

「高山植物は、その場で楽しむもの。マナーを守り撮って良いのは写真だけ。」



秋田駒ヶ岳で見つかった盗採跡

自然観察会報告

5月25日 「新緑の滝/上で森林浴と野鳥観察」

伊達先生の解説でイソギの姿を追ったり、ホシツミを観察したり、シラネアオイの花に見入った充実した1日。一般参加16名

6月21日 「テジカメで撮る初夏の花・犬倉山自然観察会」

工藤先生から花を美しく撮るテクニックを伝授される。下山後VCで参加者の作品発表会。NHKも同行取材。一般参加13名

7月6日 「焼走り溶岩流とコマクサの不思議な関係」

岩手山の北東面を登り、走り溶岩流と満開のコマクサを見ながら植生の移り変わりの早さに一同びっくり。一般参加19名

7月10日～17日 「夜の網張の森でヒメボタルを見よう」

今年の豪雨で影響が心配されたが、今年も元気に輝きを放つ。

*インフォメーションコーナー

詳しいお問い合わせは網張ビジターセンターまで



「網張の森 コウモリナイト」

8月9日(土)

網張ビジターセンター集合

19:00～20:30

定員10名

参加費大人500円 小学生300円

コウモリの保護を
考える会のメンバー
と夜の森のナイト
ハイクを体験します。

国立公園内に進入したオオハongoソウ
を私たちの力で退治しましょう!

「外来植物駆除大作戦！」

8月20日(日)

奥産道大松倉橋ゲート前集合

9:00～11:00

定員なし、参加希望する方

どなたでも、ただし傷害保険料200円必要



岩手山まるごと体験ネットワーク

「秋の網張星空観察会」

9月27日(土)

澄み切った夜空に
アンドロメダ銀河
を探そう。



網張キーセンター集合

19:00～21:00

定員20名

参加費大人500円 小学生300円

● 網張ビジターセンター企画展 ● -アクティブレンジャー写真展- 現在展示コーナーにて開催中

7月展 「東北の自然～風景～」

8月展 「東北の自然～いきもの～」



「グッドタイミング」八甲田にて 畑中 亮輔(十和田)

東北各地の国立公園、国設の鳥獣保護区、世界自然遺産、貴重な自然を後世に伝えるために、その地域を日々パトロールして利用者の安全確保や野生生物の調査に従事する環境省の非常勤職員がいます。「アクティブレンジャー」と呼ばれる彼らが日常業務の合間に撮影した中から、彼らの視点ならではの魅力的な作品をお見せします。



「ミヤマクワガタ」ノロ川の森にて 足利 直哉(秋田)

モモンガのつぶやき

「大学生の眼から見たビジターセンターは？」

網張ビジターセンターを訪れる年齢層の中で一番少ないのは、10代後半から20代前半の「青年世代!」。そんな中で、遠距離をものともせずビジターセンターに通ってくる一人の青年がいます。

地元の大学に通う4年生のO君です。卒業研究の対象にビジターセンターを選んだ彼は、スタッフと一緒に、自然ふれあい活動に参加したり、散策路の整備や館内展示のサポートをしながら、真剣に研究に取り組んでいます。ややもすると過去の経験にとらわれすぎたり、目の前の忙しさに流され易い私たちにどんなレポートが待っているのでしょうか? 嬉しいような、怖いような・・・(たく)

十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 5月 2,203人 ◆ 6月 1,902人

朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 5月 10℃ ◆ 6月 14.1℃

「今年度ビジターセンター開設10周年を迎えます!!」

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://www17.ocn.ne.jp/~amihari/>

E-mail: amihari@vanilla.ocn.ne.jp

開館 冬期(3月末まで) 毎週火曜日休館 9時～17時